

# 令和7年産 美里地区の稲作情報

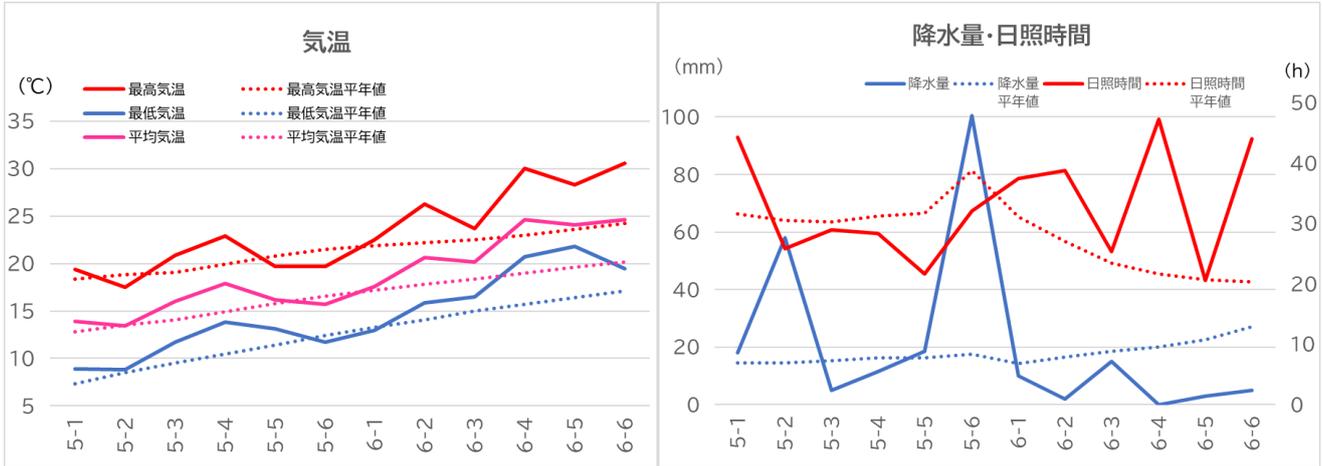
宮城県美里農業改良普及センター 第5号 令和7年7月1日発行

TEL:0229-32-3115

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



## 1. 気象経過(5月～6月半旬別、アメダス鹿島台)



6月は1か月を通じて高温で推移し、月平均気温は平年値を3.3℃上回りました。

東北南部の梅雨入りは、速報値では平年より2日遅い6月14日頃です。

梅雨入り以降も降雨が少なく好天が続き、6月の月合計では、降水量は平年比29%、また日照時間は平年比145%となりました。

## 1. 管内生育経過

表1 生育調査結果

調査地点	品種	区分	6月20日調査結果				7月1日調査結果							
			田植(播種)日	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(枚)	葉色(SPAD値)	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(枚)	葉色(SPAD値)			
移植	田尻(桜田高野)	ひとめぼれ	本年値	5月3日	43.7	582.0	8.2	46.3	65.5	642.1	9.9	38.6		
			前年値	5月4日	47.7	555.1	8.4	45.5	66.9	607.9	9.6	40.7		
			平年値	5月5日	41.8	429.4	8.4	44.7	58.6	558.4	9.8	43.2		
			前年比・差	-1	92%	105%	▲0.2	102%	98%	106%	0.3	95%		
			平年比・差	-2	105%	136%	▲0.2	104%	112%	115%	0.1	89%		
			本年値	5月15日	34.9	278.1	7.8	44.2	61.2	408.4	9.9	41.0		
	鹿島台(広長)	つや姫	前年値	5月3日	44.6	406.4	8.0	44.1	62.3	476.8	9.1	39.7		
			前年比・差	+12	78%	68%	▲0.2	100%	98%	86%	0.8	103%		
			本年値	5月19日	31.2	225.1	7.0	43.9	55.0	394.0	9.5	40.9		
			前年値	5月18日	34.7	408.2	7.3	40.6	58.7	539.5	9.1	39.5		
			平年値	5月7日	37.9	370.1	8.8	42.4	55.0	536.0	10.4	40.9		
			前年比・差	+1	90%	55%	▲0.3	108%	94%	73%	0.4	104%		
南郷(和多田沼)	金のいぶき	平年比・差	+12	82%	61%	▲1.8	104%	100%	74%	▲0.9	100%			
		本年値	4月7日	37.3	372.9	5.9	41.5	53.4	504.8	8.4	43.0			
		前年値	4月28日	32.1	141.7	5.4	38.7	38.5	339.4	7.5	40.9			
		前年比・差	-21	116%	263%	0.5	107%	139%	149%	0.9	105%			
		乾田直播	小牛田(北浦)	萌えみのり	本年値	4月7日	37.3	372.9	5.9	41.5	53.4	504.8	8.4	43.0
		前年値	4月28日	32.1	141.7	5.4	38.7	38.5	339.4	7.5	40.9			
前年比・差	-21	116%	263%	0.5	107%	139%	149%	0.9	105%					

※平年値は過去5年間の平均値。つや姫、萌えみのりはR6年からの調査。萌えみのり調査は6月10日から。

・5月上旬に移植したひとめぼれ調査までは、葉数は8.2枚(平年差+0.1)とおおむね平年並みの生育で、間もなく幼穂形成期を迎えます。また、m<sup>2</sup>当たりの茎数は642.1本(平年比115%)と平年を大幅に上回っています。

・つや姫、金のいぶきは移植日等により生育が遅れ気味でしたが、徐々に取り返しています。

### 3. 今後の管理について

移植水稻ではおおむね中干し適期を過ぎていると思われますので、まだ水が入っているほ場では速やかに中干しを行いましょう。生育が早まっていますので、早めに追肥の準備をすすめましょう。

#### (1) 中干しについて

・中干しは7～10日間、田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく程度に行います。遅くても幼穂形成期には終了しましょう。中干し後は、急激に湛水すると根を傷めやすいので、走り水から徐々に湛水し、以降は出穂まで原則として間断かん水ないし飽水管理とします。

県調査ほの幼穂形成期

ひとめぼれの平年値：7月5日 前年値：7月4日

つや姫の前年値：7月11日(平年値なし)

#### (2) 幼穂形成期追肥について

表2 幼穂形成期の生育量の目安と追肥量

品種	幼穂形成期(幼穂長1～2mm)				品種	幼穂形成期(幼穂長1～2mm)			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)	追肥量 (標準) (窒素成分) (kg/10a)		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)	追肥量 (標準) (窒素成分) (kg/10a)
ひとめぼれ	56～59	470～530	37～39	1.0	だて正夢	64～70	390～460	40～42	-
まなむすめ	65～70	580～600	35～37	2.0	金のいぶき	65～70	570～620	33～35	1.0
ササニシキ	62～68	720～760	34～36	-	こがねもち	65～70	500～550	33～35	-
つや姫	70～75	550～580	35～37	2.0					

・高温で葉色が低下しやすく、生育も早まっているとみられます。上記の幼穂形成期の平年値と上の表2を参考に、標準的な追肥を行いましょう。一発型肥料を使用しているほ場でも、ここ数年は高温により葉色が下がる場合があります。ほ場の状況に応じて追肥を行いましょう。

#### (3) 紋枯病について

・紋枯病は、7月頃から発病が目立つようになり、上位葉まで進展した場合には倒伏、減収の要因となります。6月後半の平均気温が高いほど穂ばらみ期の発病株率が高いこと、また、前年の多発ほ場では残渣から翌年も発病しやすいことがわかっています。昨年の発生量は「やや多い」であり、6月中高温が続きましたので、必要に応じ薬剤防除を行いましょう。

紋枯病の要防除水準(収量5%減)

穂ばらみ期の発病株率

○ひとめぼれ：18%      ○ササニシキ：10%



図 紋枯病の発病株  
(宮城県病害虫防除所 HP より)